

「道路整備を、声にこたえなくては

町への要望と対応

町へは皆さんからさまざまな要望が寄せられます。町も要望や意見を聴こうと夜の町長室や町民アンケート、地域行政懇談会などを実施しています。その中で、特に強い声は道路に関係するものです。道路の整備、舗装、拡幅を、「町道の認定を」「交通問題の解決を」…この声に町はこたえなくてはなりません。町の道路整備はどのようになっているのでしょうか。さらに、黒埼町には西バイパス、小針街路、新潟外環状線などの大きな道路が次々と出来ています。現在ある北陸自動車道、国道8号と合わせ、町は一大道路網の拠点になろうとしています。これにも対処していく必要があります。今号では「特集・この道を生かすみち」と題して、町を取り巻く道路問題とその対応を探ります。最初に町道から紹介します。

要望 夜の町長室に「道を」の声が

二万二千人の要望が的確に反映される行政—それを町は目指します。昨年、四月から皆さんの自由な意見をお聴きしたいと夜の町長室を始めました。今年三月までに訪問された方は百三十一人で、七十件の意見を町長が直接聴きました。その中でいちばん多かったのは、道路に関するもので十三件でした。「町道に認定してほしい」「道路の拡幅を」「舗装を…」道路整備の要望が大きいことは町民世論調査でも伺えます。昨年の調査では「町政が特に力を入れてほしいもの」という設問で道路整備と答えた人が一五％。下排水の二一％に次いで二番目です。今年各自治会で開いている地域行政懇談会でも、道路への意見を数多くお聴きしました。表紙のかたも道路には意見をお持ちです。請願も道路関係が一位。議会では請願や陳情で皆さんの意見を取り上げています。昭和五十七年から今年の九月定例会までに提案された請願は六十八件で、そのうち町道認定が十九件、歩道整備や設置が三件、町道の拡幅や整備が三件と、道路に関する請願は合わせて二十五件に上っています。議会では、五十七年に町道認定を三件継続審査したほかはすべてを採択し、行政に請願内容の実現を求めています。道路は生活に関係し、特に町道は身近で重要です。通勤、通学、買い物、ジョギング…だから要望が大きいのも当然といえます。



町道の舗装は、道幅に合わせ、五メートル幅の道路は、四メートル幅に引き上げました。

対応 道路整備に1億5千万円

要望が果たして実現されているのでしょうか。実現には予算が必要で、町の一般会計当初予算は本年度三十四億一千万円です。道路新設改良費に一億五千万円を計上しています。このお金で二十四の町道路線を整備し、既に十五路線が工事を終え、その延長は一・五キロになりました。ちなみに、十平方メートル舗装するのにおおよそ二万五千円かかります。住宅地はほぼ舗装済み。町道の総延長は二十万五千メートルで、九万五千メートルを舗装しています。舗装率は四六・三％

ですが、住宅地はほぼ舗装済みです。今までの舗装の進み具合は下のグラフのとおりです。舗装されていらない五割以上の町道は農道が大部分を占めています。農道は農村総合整備モデル事業で昭和五十四年から取り組んでいます。町道の整備や舗装にかかる費用は近年減少しています。昭和五十六年は三億三千万円だったものが六十一年は一億六千万円になりました。(グラフ2参照)これは主に町道はほぼ整備しおえたことと、起債(町がお金を借りること)ができてなくなったためです。

要望 道路は一応よくなった。でも

「道路はよくなった」と表紙の阿部さんは言います。しかし、「交通量も多くなった」と付け加えます。石原さんは「道が狭い」「歩道を」と訴えます。道路は一応よくなった。でも…。まだ不十分なのです。夜の町長室の声、町民世論調査、請願書がそれを裏付けています。不十分な点は何でしょうか。主に次の六点が絞られます。①町道以外の私道が未整備 ②道路が狭い ③歩道などの安全対策 ④交通量が多い ⑤町の中心になる道路がない ⑥騒音、震動の公害対策。①から⑥まではすべて関連している問題でもあります。これらの問題の背景には次のことがあります。①昭和四十年代からの急激な宅地化で、道路整備が追いつかない ②新潟市など他市町村からの車の流入が多い ③国道8号、北陸自動車道が町を走り、新潟県の道路網の要になっている。この背景を踏まえて町がどう対応しているのか、点検します。

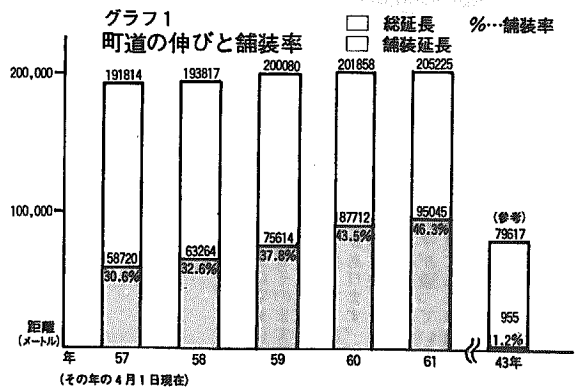
対応 私道助成、拡幅など少しずつ

①町道以外の私道の整備ですが、昭和五十八年に「私道整備費助成制度」を作りました。これは私道の整備に町が四割の負担をするものです。年間、四、五本が申し込まれています。今年は表紙の山崎さんほか三本、助成しました。また、町道に認定してほしいとの議会への請願は昨年が三件、今年が一件と減少してきました。

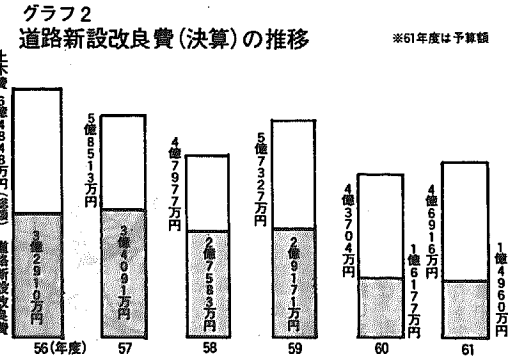
②道路が狭い—町道の幅は六メートルです。ただ、二本だけです。金巻10号線の一部と金巻小平方線を八メートルに拡幅しました。

③安全施設は歩道を寺地・立仏線に設置しています。ガードレールも交通量の多いところに設置しています。ただ、農業用排水路のガードレールやふたについては、管理者の土地改良区と協議して、かなければなりません。

④交通量が多い—これを緩和するには⑤町の中心になる道路が必要で、⑥騒音、震動の問題を含めて、町だけでは解決できません。町の対応策は次ページ以降で、町が購入する新幹線側道、建設省が工事中の西バイパスとからめて考えてみます。



※町道は現在三百九十七路線あります。私道を町道に認定したり、長さなどを変更する場合は議会の議決が必要です。町道に認定されると、町が維持管理します。



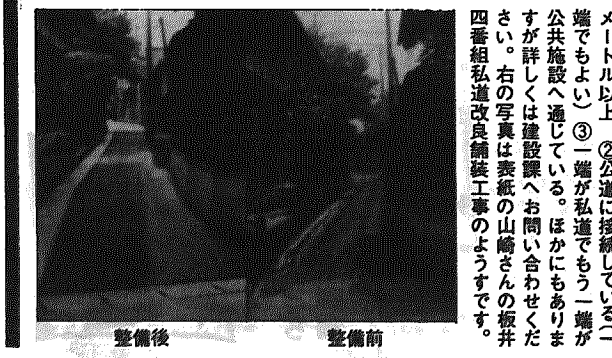
※私道整備費助成制度…対象となる私道に次の条件があります。①幅が二・七メートル以上 ②公道に接続している(一端でもよい) ③一端が私道でもう一端が公共施設へ通じている。ほかにもありますが詳しくは建設課へお問い合わせください。右の写真は表紙の山崎さんの板井四番組私道改良舗装工事の様子です。



特集・この道を生かすみち ①町道編



建設中の立仏14号線 (5ページ参照)



整備前 整備後

お楽しみに—広報係

今月号の「特集・この道を生かすみち」は昨年12月号でも同じタイトルで特集しました。そのときは、関越自動車道全線開通、新潟外環状線のルート発表、西バイパスなど新しく出来る道路を中心に扱いました。併せて読まれるとよりわかりやすいかと思えます。また、黒埼町の地図を付録として付けましたので、活用してください。なお、特集に使っている「道」という大きな字は20ページでご紹介した金子敏美さんから彫っていただいたものです。